

## 兵庫県保険医協会第44回総会にご参加ください

◇6月17日(日)13時30分~/チサンホテル神戸(「高速神戸」駅 直結 徒歩1分)

- ・総会議事 13時30分~ 2Fあじさい  
2011年度会務報告、2012年度活動方針案・予算案、ほか
- ・記念講演 15時30分~

# カプセル内視鏡の有用性と今後の展望

慶應義塾大学医学部 内視鏡センター助教



細江 直樹 先生

小腸用カプセル内視鏡(CE: Capsule Endoscopy)は、2000年にIddanらによってNature誌上で発表され世界中で幅広く使用されている。CEによりこれまで観察することができなかった小腸が観察でき、様々な小腸病変が明らかとなってきた。CE使用数は100万個を超えたともいわれており、小腸のみならず新たなカプセルとして大腸用、食道用のカプセル内視鏡が欧米では使用されている。本邦においては2007年6月より原因不明消化管出血(OGIB: Obscure Gastrointestinal Bleeding)を適応とし、ギブニイメージング社よりPillCam SB®、2008年11月より国産としては初となるオリンパス社製カプセル内視鏡(Endocapsule®)が発売された。OGIBに対するCEの有用性および、今後の展望として他臓器用カプセル

内視鏡、CE機器開発の動向について発表する。

【細江 記】

《ご略歴》H9 慶應義塾大学医学部卒業、H9 慶應義塾大学医学部内科学教室、H11 東京都稲城市立病院内科、H12 年大田原赤十字病院内科、H13 年慶應義塾大学医学部消化器内科学教室、H16 年東京都済生会中央病院内科、慶應義塾大学医学部消化器内科助教、など歴任。現在、慶應義塾大学医学部内視鏡センター助教

◇懇親会 17時30分~ (参加費不要) チサンホテル神戸 3F 六甲

兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX 078-393-1802(組織部)

兵庫県保険医協会 第44回総会(6/17)に

出席します

記念講演に参加します( )人

懇親会に参加します( )人

(地区 ) (お名前 )

## 兵庫県保険医協会 姫路・西播支部ニュース

No.185 2012年5月25日発行



発行 兵庫県保険医協会姫路・西播支部 支部長 宗実琴子  
 連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F  
 兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1807 FAX/078-393-1802

職員接遇研修会に81人

# すぐに実践したいと好評



講師の説明に熱心に聞き入る参加者(5月19日・姫路商工会議所)

5月19日に姫路商工会議所で、職員接遇研修会「医療機関に求められる接遇の基本とクレーム対応」を開催。目白大学短期大学部教授の油谷純子先生を講師に81人が参加した。

油谷先生は、接遇の必要性を説明した上、医療従事者の身だしなみや、患者さんとの話し方・聞き方のポイントを紹介した。話し方では、「その人」「今日はなんですか」「もう一度来てください」を院内で言葉にするとき、

(1ページから続く)

「何と書いていますか」と参加者に問い、参加者は敬語の使い方を実践的に学んだ。聞き方では「聴く」ことが大事で、そのために必要な姿勢や視線、言葉による応答の仕方を説明された。そのほか、電話対応の基本やクレームの苦情対応などについて解説された。

参加者からは「研修会はとても分かりやすかった」「相手への対応、接し方の難しさと大切さがわかった」「今の自分の接し方では患者様は満足されていないだろうと思ったので、研修で学んだことをすぐに活かしたい」などの意見が寄せられた。



講師の油谷純子先生

## 第 243 回幹事会から



4月21日(土) 於 姫路じばさんびる 参加 4人

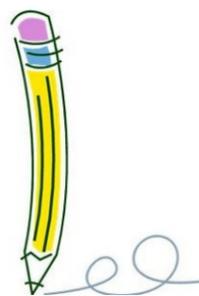
- ◆姫路・西播支部の会員数 648人(医科 442人、歯科 206人)
- ◆情勢と運動対策、その他 税・社会保障一体改革、生活保護問題等
- ◆支部の活動・企画 接遇研修会(5月)、支部総会(7月)など

幹事会には、会員の先生はどなたでもご参加いただけます。  
お問い合わせは、TEL 078-393-1817 田村まで。

## 支部ニュースにぜひご投稿ください

日常診療や地域のことなど、テーマは自由です。  
原稿は下記の連絡先にお送りください。

FAX 078-393-1802 担当; 田村  
e-mail tamura@doc-net.or.jp



## 夢前町に産廃処分場計画 環境汚染を懸念する

姫路市 松浦 伸郎

郵便受けのチラシをいつものように取って家に入り見て驚きました。自分の家のすぐそばに産廃施設ができると書いてあるのです。寝耳に水とはまさにこのことで、信じられず近所の方に聞きましたが、誰もご存じありませんでした。

すでに地権者や地元の自治会長は産廃施設の建設に同意しているという噂が流れ、このような話が飛び交うことは施設建設が事実の可能性が高いと感じ、情報を集めました。

姫路市夢前町前之庄字庄司谷・谷山・荒神山に、安定型産業廃棄物最終処分場の建設計画が進められています。埋立容積は約500万立方メートル、開発面積は約2万1千平方メートルと国内では最大級規模の最終処分場です。

これだけ大規模な産廃処分場設置計画にもかかわらず、近隣、下流域に住む住民には全くこの計画が知らされていません。業者による住民説明会は限られた地域のみでしか行われておらず、その地域の方ですら多くが計画を知りません。計画を知った方からは、不安の声が上がっています。

安定型処分場とは、廃プラスチック等5品目を化学変化が起こらない物質として、素埋めするものです。処分場で有害物質が発生した場合、その流出を防ぐことができません。したがって、流域の水や米作、野菜作りの安全性は10年後20年後には保障できないものになるでしょう。

埋め立ては5品目に限るといっても、5品目以外の物質を完全に分別することは困難です。5品目以外に有害物質が混入し、雨水などに溶け出して地下水を汚染するかもしれません。

1999年には、福岡県筑紫野市の安定型処分場で、安定5品目から発生するはずのない硫化水素による中毒が原因と疑われる作業員3人の死亡事故が起こっています。

加えて、安定的とされる5品目自体が安定しているのかという問題もあります。プラスチック類やゴムくず、金属くずなどは酸性雨などにさらされることにより化学的変化を起こして有害物質を溶出させます。その他の化学変化も多種多様なことが予想され、未知の化学物質による複合汚染の問題など、今後の多大な影響を否定できません。

日本弁護士連合会も、2007年に「このまま安定型処分場を放置するならば、不作為責任が生じかねない状況であり、もはや法令によって処分場の規制を行う権限を有する国が安定型処分場という類型をこのまま認めることは許されない状況に至っている」と、安定型産廃処分場が新規に許可されないよう求める意見書を提出しています。

このような産廃処分場建設は、現在の美しい夢前町の土壌や地下水を汚染し、住民の健康に多大な悪影響を及ぼすのではないかと、私は強い懸念を持っています。今後、姫路市と業者へ、住民合意が得られるまで施設設置を許可しないことや日弁連の意見書の尊重などをお願いしていきたいと考えており、ぜひ協会にもお力添えをお願い申し上げます。